

研究概要

1 研究主題

『自らの意思で 発見・判断・実行できる スーパーソサエティキッズの育成』

～一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学びの在り方～

2 主題設定の理由

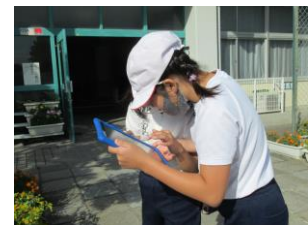
Society5.0 と呼ばれる「超スマート社会」が到来し、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）といった科学技術の発展がもたらす、仮想空間と現実空間を高度に融合させた夢や映画のような便利な生活が現実になろうとしている。



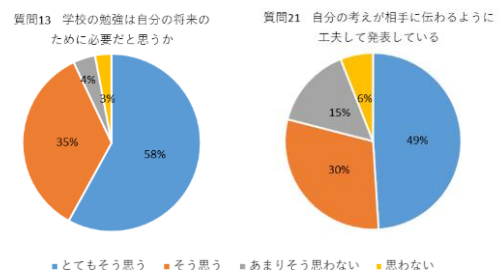
同時に、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機にも瀕している状況である。こうした急激な社会や産業の変化に対応するために、働き方や生き方の転換が叫ばれ、新たな教育改革が求められている。岡崎市においても、GIGA スクール構想が打ち出され、iPad を効果的に利用した実践が進められている。このことか

らも学校教育の更なる変革が必至のものと強く感じている。

今年度から全面実施された新学習指導要領においては、新しい時代を生きる子供たちに必要な力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理された。「主体的・対話的で深い学び」という視点に立ち、これら三つの力をバランスよく育ていけるように授業改善をしていくことが、私たちに求められている。



本校の子供は、児童委員会の活動に始業前から率先して取り組む姿や、チャレンジランニングやチャレンジジャンプなどの行事前に競って練習に向かう姿など、決められたことに対しては力を惜しむことなくひたむきに活動することができる。次なる課題としては、活動等がよりよいものとなるように問題点を自ら考え、磨き上げていくという点が挙げられる。これらは子供自身も認識しており、12月に実施した自分の行動を振り返るアクションアンケートでは、質問13のように勉強の必要感を強く感じているが、質問21からは自分の考えがもてていないため発表までには至らない傾向がうかがえる。



そこで本校では、研究主題を『自らの意思で 発見・判断・実行できる スーパーソサエティキッズの育成』、副主題を「一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学習指導の在り方」と設定し、研究を進めることとした。

研究主題にある「自らの意思で 発見・判断・実行できる」とは、答えのない問題を解決するため、学んだ知識や技能を実社会で汎用できる実践力といった資質・能力と捉え、「スーパーソサエティキッズ」を、変動制、不確実性、複雑性、曖昧性の高いこれからの時代を生き抜く力をもった子供と、本校では定義した。そして、その実現に向けた、学校教育での教師の視点が、「一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学習指導の在り方」であると考えた。

研究1年次の成果と課題は次のようであった。

<研究1年次の成果と課題>

- 主体的な学びを引き出す单元構想・授業でなければ、学びの深まりや広がり達成することが難しいことを共通理解できた。
- 対話力が不可欠であることを再認識し、「伝え合い・ふれあいタイム」を発足させた。
- ▲ 「深める」「広げる」の関係性を定義する必要がある。
- ▲ 働かせるべき各教科の見方・考え方の理解を深める必要がある。
- ▲ 学びを深め新たな価値を得るために、どう教科の見方・考え方を働かせ、どう生かしていくかを考える必要がある。

そこで、研究2年次として、実践を多く積み重ね、仮説や手だての見直しと検証資料の蓄積を図ることとした。

3 目指す子供像

「自らの意思で 発見・判断・実行できる スーパーソサエティキッズ」の具体像として、次のような子供の姿を目指すこととした。

- ・自分の思いをもち続け、学習対象と向かい合う子供 (主体的に学ぶ子)
- ・協働的な学び合いの中で、新たな価値を見つけ出す子供 (学びを深める子)
- ・学びで得た新たな価値を、次の行動に活かそうとする子供 (学びを広げる子)

4 研究仮説と手だて

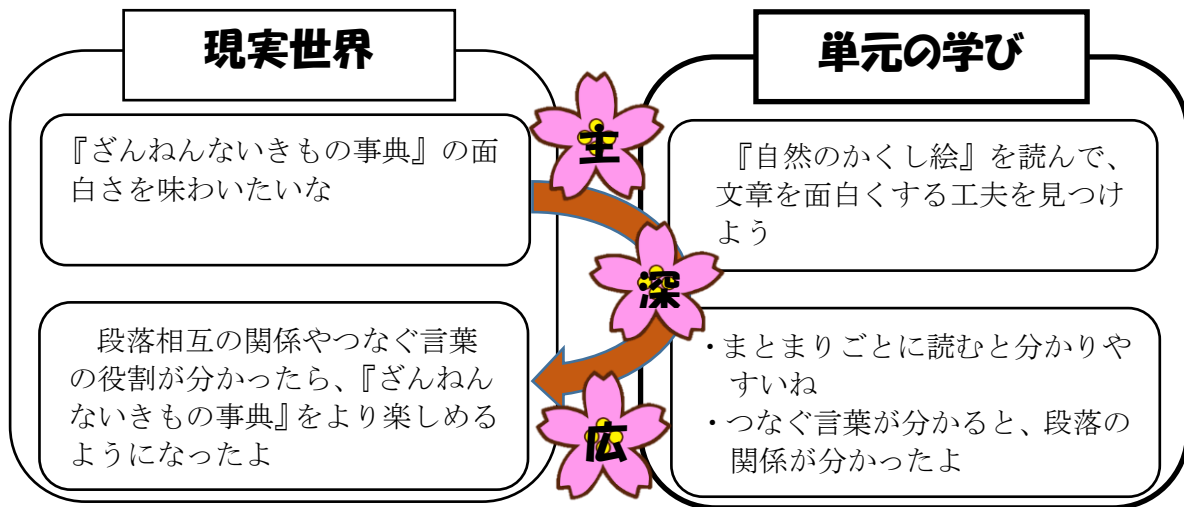
【仮説1 (主体的な姿を願って)】

子供の実態や生活経験を把握した上で单元構想を工夫し、個の考えをもつ場を設定すれば、子供は課題を自分の問いとして捉え、主体的に学習を進めていくことができるであろう。

【仮説1の手だて】

手だて① オーセンティック(真正な・本物の)な学習のための単元構想

「Authentic」という単語には「本物の」「正真正銘の」等の意味があり、学校での毎日の授業が「深い学び=本物の学び」になっているかが問われるとされている。現実社会に存在する本物の事象に可能な限り近づけて学びをデザインしていくことで、学ばれた知識・技能も本物になる。そこで、子供の既習事項や生活経験を把握し、伸びようとしているどのような芽があるのかを捉え、その単元で取得もしくは働かせることができる教科の見方・考え方を明確にした単元を構想する。それをイメージ化したものが次の図である。



手だて② 核となる個の考えの確立

対話や関わり合いを行う前に、ノートやワークシートなどに個の考えを確立する時間を確保し、子供が自分の考えを必ずもった状態にすることで、自らの変容に気付くための礎とすることができるとともに、仲間とのリアルな学び合いの必要性を感じられるきっかけとなるようにする。また、教師は机間指導において個の考えを把握し、関わり合いの中での考えのずれを生かした効果的な指名順となるように配慮する。



【仮説2 (深める姿を願って)】

学習対象や自分との対話、友達等との協働的な学びを進める中で、自分の考えを明確にもち、思考の変容が感じられるように教師支援をしていけば、子供は思考を深め、学びに対する新たな価値を見つけることができるであろう。

【仮説2の手だて】

手だて③ 思考の見える化

思考の移り変わりが見取れる構造的な板書（カテゴライズ・思考ツールの活用）や、iPadのアプリ（TeamsやschoolTakt等）、付箋やホワイトボードを利用して、自分と仲間の考えとの差異を感じたり、教師が本時の学びや教科の見方・考え方にふれる意見をもつ子供のノートやワークシートを撮影し、子供の発言の手助けとしたりする。



手だて④ 思考の変容の自覚

単元は本時の学習の集合体である。しかしながら、本時の振り返りが、その時間あるいは次の時間の課題設定にとどまっている感が否めない。そこで、単元の学習内容を履修した段階で、振り返りを統合できるようにこれまでの学習内容や振り返りを再度確認し、単元を通した振り返り作文を書くことで、自らの成長を自覚（メタ認知）できるようにする。



【仮説3（広げる姿を願って）】

単元の終末で、子供が学びで得た新たな価値を統合的・発展的に考えられるよう教師支援していけば、学びを活かし、生活や次の学習に広げる行動に踏み出していくことができるであろう。

【仮説3の手だて】

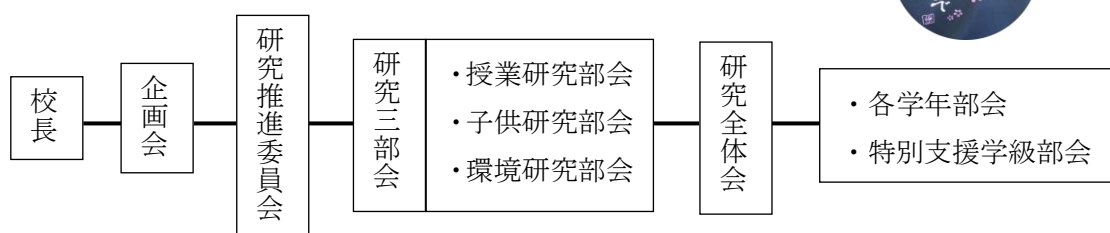
手だて⑤ 学びを生活につなぐ支援

単元のまとめの段階で、学びを活かす場面（こういう場面だったらどうする？）を教師から提示し、自分なりの見通しを子供が伝え合う場面を設定する。そうすることで、子供は単元での学びを振り返り、その成果を他の場面でも想起して活かすことができるようにする。



5 研究の組織

・研究組織図



6 研究構想図

教育委員会 研究委嘱内容

- ・「深い学び」は、「どのような学びか」「子供のどのような姿により実証されるか」「どのような指導で具現化できるか」
- ・主体性をもち、必要性を感じながら思考・判断し、物事を捉え直していく学習指導について
- ・一人一人が目標をもち、自らの成長を実感できる授業の創造と個に応じた支援

広小の子供の実態

- ◎学びに向かう意欲が大きい
- ◎与えられたことをがんばる
- ◎いわれたことをきちんとやる
- △受け身な姿勢が多い
- △自分で克服が苦手
- △聞いて考えることが少ない
- △意見発表に臆してしまう

社会的背景・社会的要請

- ・AI、IoT等の発達による急速な時代の変化、「超スマート社会(Society 5.0)」の到来
- ・求められる「未知なる状況や変化に「主体的に対処しようとする力」「他と協働して対処する力」「変化を前向きに受け止め、人間らしい感性で創造する力」
- ・新学習指導要領の完全実施
- ・GIGAスクール構想

研究主題

『自らの意思で 発見・判断・実行できる スーパーソサエティキッズの育成』
～一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学びの在り方～

目指す子供像

- ・自分の思いをもち続け、学習対象と向かい合う子供 (主体的な子)
- ・協働的な学び合いの中で、新たな価値を見つけ出す子供 (学びを深める子)
- ・学びで得た新たな価値を、次の行動に活かそうとする子供 (学びを広げる子)

仮説3

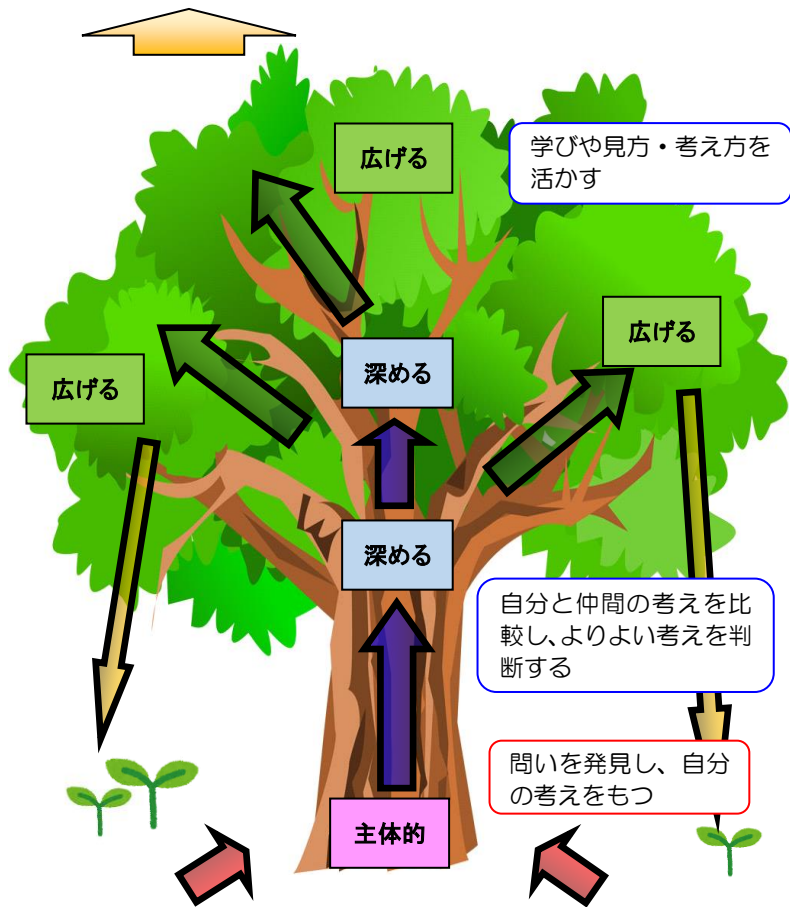
単元の終末で、子供が学びで得た新たな価値を統合的・発展的に考えられるよう教師支援していけば、学びを活かし、生活や次の学習に広げる行動に踏みだしていくことができるであろう。

仮説2

学習対象や自分との対話、友達等との協働的な学びを進める中で、自分の考えを明確にもち、思考の変容が感じられるように教師支援をしていけば、子供は思考を深め、学びに対する新たな価値を見つけることができるであろう。

仮説1

子供の実態や生活経験を把握した上で単元構想を工夫し、個の考えをもつ場を設定すれば、子供は課題を自分の問いとして捉え、主体的に学習を進めていくことができるであろう。



学びを内側から支える

- ・ICTの活用
- ・対話力の強化
- ・小集団学習の活用

良好な人間関係の育む

- ・周囲から認めってもらう活動
- ・アクションアンケートの実施

学びを外側から支える

- ・学びの種をまく掲示の共有
- ・学習成果の学年での共有